

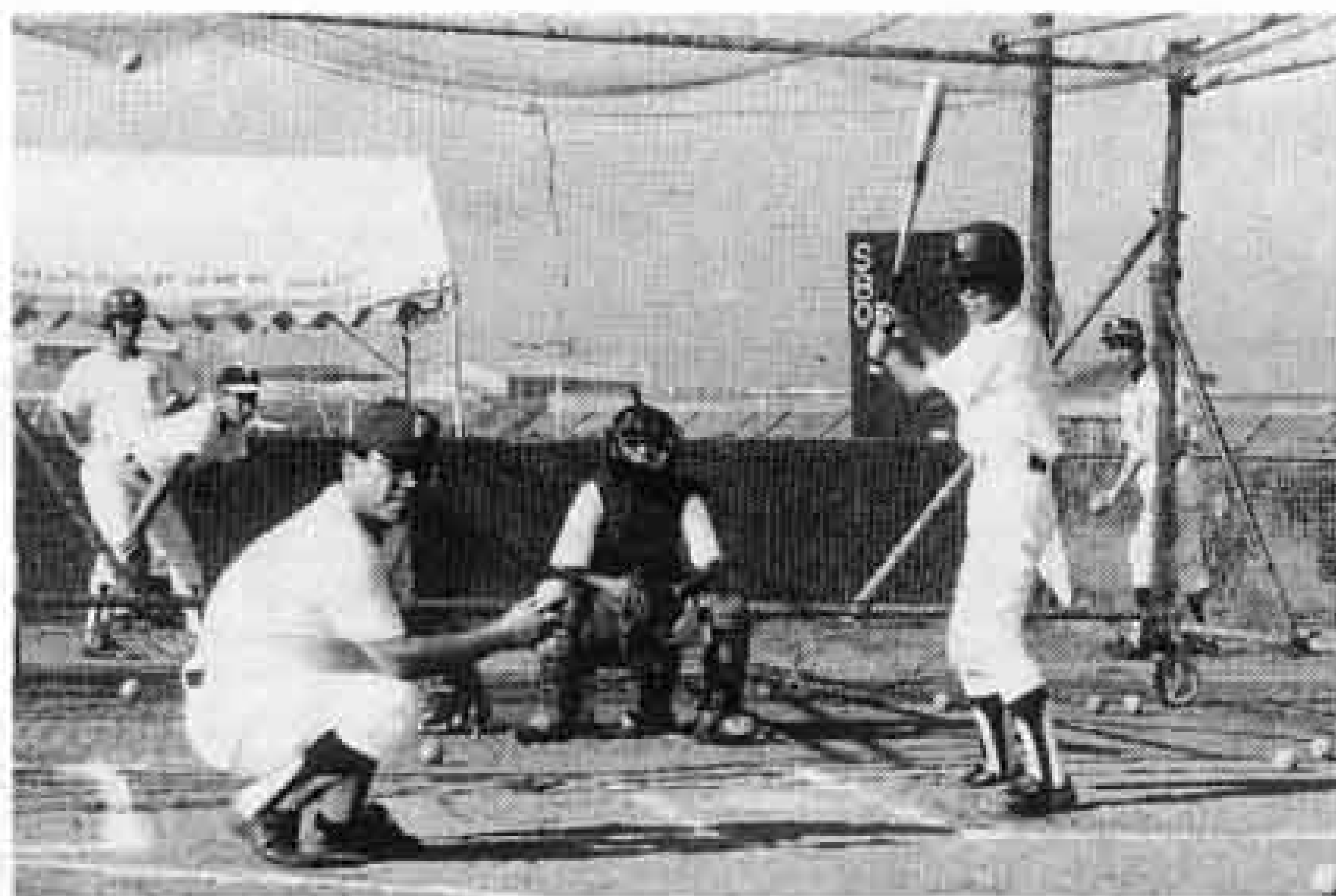
# こんなところに 市民憲章

1. 富士山のように 強く 正しく  
きまりを守り  
平和で安全な社会をつくります

## 汗と夢と感動と

「富士リトルシニアリーグ」の選手は30人。中学1、2年生が、高校野球の選手を夢見て、練習に汗を流しています。野球の技術はもちろんですが、それ以上にみっちり仕込まれるのが、強い精神力と体力、そして行儀作法。

率いる監督は、松岡の鈴木勝美さん。昭和57年から10年間、シニアリーグの監督を務めています。ちょっと難しい年代の中学生に、それぞれの個性に合わせた適切な指導を心がけ、また何よりも野球を志す中学生たちに、夢と感動を与えようと情熱を傾ける鈴木さんです。



——都市提携をどう思いますか  
達也さん「文化が違って、考え方も違う外国を知ることが、日本のことがわかっていくことだと思おう。外から日本を見るのも必要だし、人の交流って大切ですね」  
泉さん「アメリカでは、日本のことはあまり知られていないから、いろいろ誤解もあるのでは」。交流が盛んになれば、そんなことはきつとなくなります。英語も、ネットはできているのかも。日本人は文法はできるのに、会話力はないように思います」

——アメリカ人の気質は  
達也さん「いい意味でも悪い意味でも自己が確立されているから、管理されるのを嫌います。残業はほとんどありません。フレックスタイムが採用されていて、朝早く来て働きます。三時ころ終わると、釣りや大工仕事を楽しんでいます」  
泉さん「五十代から八十代のお年寄りまでが、外に出て趣味を楽しんでいますね。パッチワークを習っていました。私の友達はお年寄りの方が多かったみたいです」  
——ありがとうございました

中国の嘉興市に次いで、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ市との国際友好都市提携の準備も進み、十二月二日調印式が行われます。今回は、アメリカの話をお聞きしようと、二年間ニュージャージー州サミット市にお住まいだった斎藤達也さんご夫妻(宮下)のお宅にお邪魔しました。

## 管理されるのを嫌い 趣味を楽しむ アメリカ人



|| こんにちわ 市民一年生です ||

——サミット市はどんな町

達也さん「人口は二万人くらいで、ニューヨークから車で四十分のベツトタウンです」  
泉さん「日本のスーパーマーケットがあるから、何でも手に入りまして、洗濯物もすぐ乾きます。どこの家にも地下室があって、あれはいいと思います。洗濯機、乾燥機、エアコン、ワインなどを入れます」

風と光と波に  
心を塗り込む画家

## 野沢秀典さん

(滝戸・37歳)

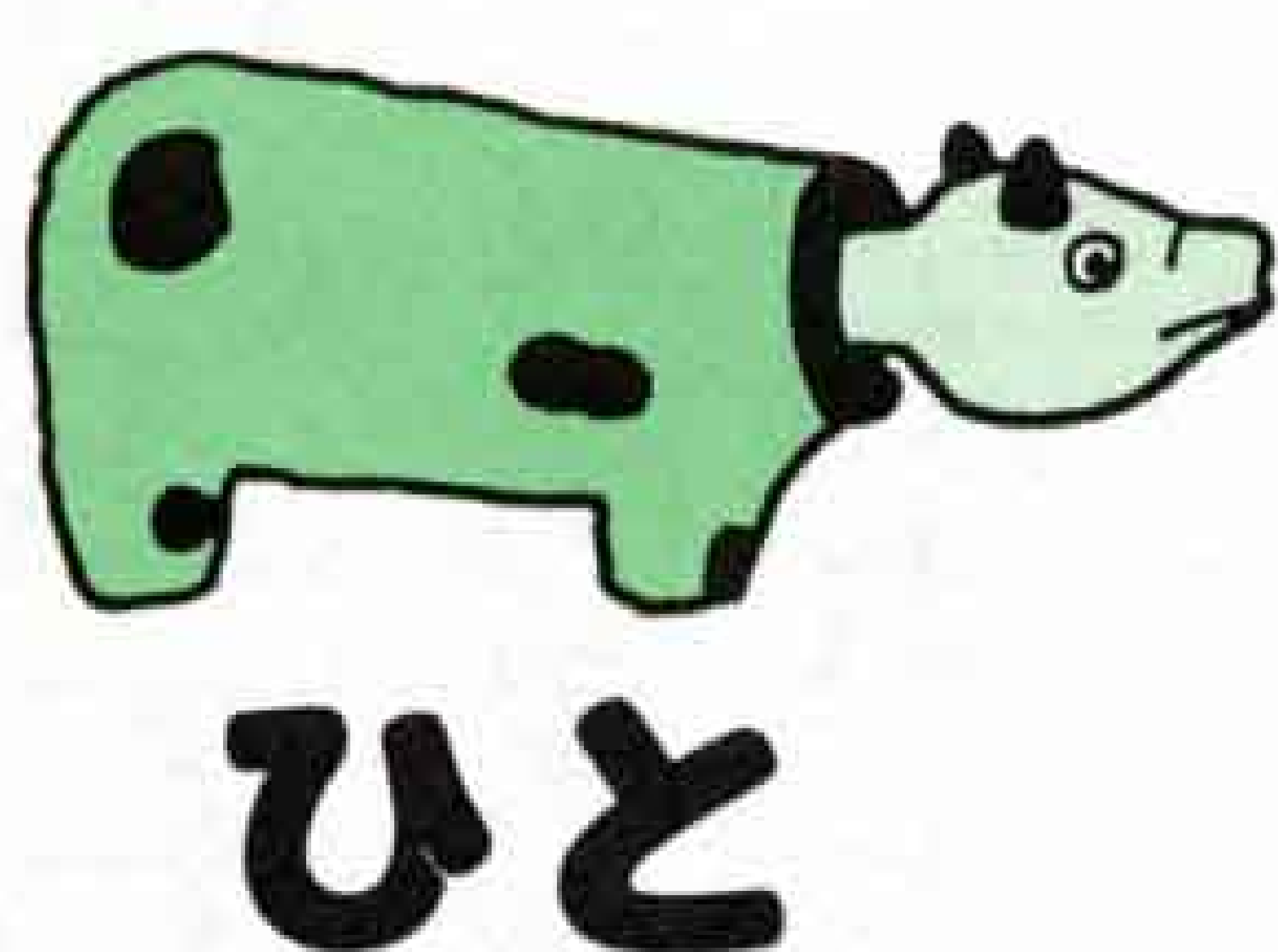


緑

の風が渡る家。

岩松北小学校の近くに、しゃれた家が建っています。ここは、小さな画廊を兼ねたアトリエ「虹の家」。野沢秀典さんが両親から離れ、自立に向かって生きる場所です。「どれだけ自分で自分のことができるか」と、かけの意味もあつたようですが、ひとり暮らしも既に五年が過ぎました。

野沢さんは、二歳のとき脳性麻痺と診断されました。養護学校小学部に入學して半年目、原因不明の発熱。以来車いすの毎日です。「虹の家」は車いす用に設計され、



ひと

玄関を入ると小さなホールがあります。窓の外は一面の田んぼ。緑の風が渡ってきます。野沢さんは、ここをもっと「何らかの障害を持つ仲間たちの『集いの場』にしたいし、大勢の人との『ふれあいの場』にしたい」と思っています。

風

と光と波と。

秋は、野沢さんにとって体の調子のいい季節。それでも、「指がだんだん動かなくなってきたり」から、午後は、調子を見ながら絵を描いています。

テーマは、風と光と波。当面の課題は、緑から茶につながる色をつくり出すこと。「黄緑であったり、オレンジと茶の組み合わせの色であったりとか」。

個展を開いても売れない絵。「売れる絵を描いたら、画家としておしまい。心を表した絵を描いていたら、いつか、だれかわかってくれる」。これは、自立に向かって生きる野沢さんの、もう一つの、かけなのです。